

〈論文〉

沖縄イメージの比較研究

大 城 亘 武

はじめに

第二次世界大戦後の戦後処理の一環として「サンフランシスコ講和条約」が1951年に締結され、1952年4月28日発効した。この条約第3条により、沖縄はその施政権が日本国から米国に譲渡された。その後、沖縄において「祖国復帰」または「日本復帰」と称される「復帰運動」が展開された。1972年5月15日をもって、沖縄の施政権は米国から日本国に返還された。施政権返還をめぐって沖縄では社会不安が沸き起こった。

この「復帰不安」の現状を把握するべく琉球大学心理学研究室は不安内容を反戦平和、自治確立、人権尊重の3本柱に設定し、政治、経済、文化、社会の脈略と関連させ、さらにこれらの事柄が日本、米国、沖縄内部の何に起因するかについて研究枠組みを構成しアンケート調査を実施している（与那嶺松助、他 1981）。

沖縄県の政治的、経済的、社会的、文化的現状のイメージについて、しばしば「温度差」とあるとマスコミで報じられ、人口に膾炙している。「温度差」とはある事柄に対する認知の違いである。どのように「温度差」があるのか、沖縄社会の認知について沖縄県内者と沖縄県外者の認知の違いの有無について検討することが本研究の目的である。特に、沖縄出身で沖縄居住の者、沖縄出身で沖縄県外に居住の者、沖縄県外出身で沖縄県居住の者、沖縄県外出身で沖縄県外居住の者、の間に違いがあるかを検討する。

定義

調査研究協力者を出身地と居住地によって、次の4グループに編成する。

Aグループ：沖縄県出身者で沖縄県内居住者

Bグループ：沖縄県出身者で沖縄県外居住者

Cグループ：沖縄県外出身者で沖縄県内居住者

Dグループ：沖縄県外出身者で沖縄県外居住者

出身地と居住地が同じ場合をアンカーグループと呼ぶ。

出身地と居住地が異なる場合を交差グループと呼ぶ。

AC交差グループ：沖縄県出身者で沖縄県外居住者

DB交差グループ：沖縄県外出身者で沖縄県内居住者

リサーチ・クエスチョン

- ① 沖縄社会の認知についてグループ間に差異がある。特にAグループ、Dグループ間の差異は顕著であるだろう。
- ② Bグループの沖縄社会認知はDアンカーグループに接近（同調）するだろう。
- ③ Cグループの沖縄社会認知はAアンカーグループに接近（同調）するだろう。

方 法

- ① 調査対象：沖縄県内外の大学生男女 1152 人。地域間移動が比較的把握しやすい学生を対象にした。

	沖縄県内出身	沖縄県外出身	合計
沖縄県内居住	441	156	597
沖縄県外居住	71	484	555
合計	512	640	1152

- ② 測定具：与那嶺松助、他（1981）、中村、他（2005）を参考に35設問で構成される5段階尺度を設定した。5段階は「そう思う—まあそう思う—どちらともいえない—まあそう思わない—そう思わない」とした。統計分析では「そう思う—まあそう思う」を「思う」に、「どちらともいえない」はそのまま、「まあそう思わない—そう思わない」を「思わない」、に編成しなおした。
- ③ 調査の実施：2012 年 9 月から 11 月。
- ④ 手続き：心理学関係の講義の受講生を対象に授業終了後集団法で実施した。ただし、「沖縄県内出身・沖縄県外居住」のBグループについては人数を確保するためにWEB 調査を併用した。調査委託先：株式会社 クロス・マーケティング
- ⑤ 統計分析：PASW Statistics 18（Windows 版）を使用した。

結果と考察

1 結果の概要

各設問に対する反応の同質性についてカイ二乗検定を施した。結果は附表1に掲げた。クロス表には各グループ別の反応者の度数（実数）とその比率、および比率の同質性を確認するために調整済み残差を掲げた。残差が 1.96 より大きい - 1.96 より小さければ有意に差異が生じていることを意味する。プラスであれば理論値より有意に頻度が高いこと、マイナスであれば有意に頻度が低いことを意味する。欄外にカイ二乗値と自由度そして有意確率（p）を掲げた。ここではpが .05 より小さければ各設問に対するグループ間の反応比率が異なることを意味する。すなわち、グループ間に「温度差」があることになる。附表 1 で示すように、カイ二乗検定の結果有意となった項目は全 35 設問中 33 項目であった。有意とならなかった2項目はV16とV26であった。なお、記入漏れのため、設問ごとの合計値は 1152 にならない。

グループ A とグループDに着目し、かつ、「思う」、「思わない」について次のような組み合わせを考える。

パターン①

	A	D
思う	+	-
思わない	-	+

パターン②

	A	D
思う	-	+
思わない	+	-

パターン①に属する設問はつぎの 18 項目であった。V1、V2、V3、V8、V9、V10、V12、V13、V14、V15、V18、V21、V24、V27、V29、V30、V32、V35。

パターン②に属する設問は、V19 と V22 の 2 項目であった。

以上の 20 設問以外に「思う」のみのカテゴリーに着目した場合「A+D-」のパターンで有意になる項目がV5、V6、V7、V31 と 4 項目ある。同じく「思う」のみのカテゴリーで「A-D+」のパターンで有意となる項目はなかった。「思わない」のみのカテゴリーに着目した場合「A+D-」のパターンで有意となる項目は、V11、V23、V34 の 3 項目であった。「思わない」のカテゴリーで「A-D+」のパターンで有意となった項目はV4、V16、V20、V25 の 4 項目であった。有意であるが上記のどれにも含まれない項目にV17、V28 があった。

2 設問項目ごとの結果と若干の考察

2. 1 まず、パターン①に属する項目について検討する。つぎに見るように、「温度差」が顕著に表れている。

V1 将来、日本政府は沖縄を再び外国の施政権下に置く可能性がある。
1952 年発効のサンフランシスコ講和条約第 3 条によって米国の施政権下に置かれた沖縄県は、1972 年の米国から日本国への「施政権返還」後も日本政府に対する警戒感ないし不信感が残っているのであろう。ただし、そう思うのは A グループで 24% であり、過半数はそうは「思わない」。

V2 沖縄の人が沖縄語（ウチナーグチ、沖縄方言）を使うと、他府県の人はそれを軽蔑的な目で見ると。

1879（明治 12）年の「琉球藩」の廃藩置県により、「日本語」教育政策が強化され、色々な事情はあるが沖縄語（方言）撲滅運動が起こり、「方言札」など琉球語に対する否定的な社会状況が醸成された。現今、生活語としての「琉球語」は消滅の危機に直面している。「軽蔑的に見る」と思う者は A グループでも 8% ほどである。しかし、D グループの 2% よりはるかに高い比率であり、「方言コンプレックス」が払拭されていないことが推察される。

V3 日本の大企業は、次第に軍事産業に手を伸ばしつつある。

全般的には「思わない」比率の方が「思う」比率より高い。日本の軍需産業については話題なることはあまりないので、積極的に「思う」比率が低いのであろう。本来なら「どちらともいえない」の比率が高くなるものなのかもしれない。

V8 米国の軍事基地があるために、沖縄は国際紛争に巻き込まれる可能性が高い。
全般的には「国際紛争に巻き込まれる可能性」はどのグループでも高いと認知されている。A グループと B グループではその傾向が顕著になっている。

V9 沖縄語（ウチナーグチ、沖縄方言）は保護・奨励すべきである。

沖縄語の保護・奨励については全般的に「思う」比率は高い。とりわけ A グループと

グループBで、その比率は高くなっている。

V10 沖縄出身者が本土で働く場合、(生活習慣や生活様式がちがうために) 肩身の狭い思いをしている。

「肩身の狭い」思いをするのはAグループとDグループでは 10 ポイントの差、「思わない」の比率もその差は 10 ポイントある。イメージに「温度差」があるのである。

V12 戦後米軍援助による米国留学の制度は、今日の沖縄の文化的・社会的発展に貢献した。

米国留学制度は 1949 年から 1972 年の間に支給された奨学金の件数は 1110 件、博士号取得者 28 人、学士号 155 人の人材を輩出している(宮城悦二郎 1983,927 頁参照のこと)。「思う」の比率は、AグループがDグループより 30 ポイントほど高い。

V13 沖縄住民には、沖縄はつまらないところで、自分たちは弱いものだと考えている人が多い。

沖縄人の「劣等意識」について A グループの若い人たちはもはや払拭したようである。しかし未だ 16%ほどが「思う」とわだかまりがある。Dグループではほとんど問題にしていない。「思わない」比率が 81%に達している。

V14 沖縄県は、日本から独立した方がよい。

1879(明治 12)年の「琉球処分」からサンフランシスコ講和条約による米国への施政権移譲や 1972 年の施政権返還の歴史の中で、日本と沖縄の間には政治的社会的葛藤が存在する。現今沖縄の「自己決定権」論議など「日米同盟」の狭間で沖縄の自治・自立、独立の機運が顕在化している。「思う」比率はAグループで 10%であるが、Dグループでは 2%である。「思わない」はAグループで 66%であるが、この値は理論値より有意に低い。消極的に「独立」志向が伏在しているかもしれない。Dグループでは「思わない」が 90%あり、「温度差」が顕著である。

V15 米軍基地関連収入は、沖縄経済に大きな比重を占めている。

1972 年の米国から日本国への沖縄の施政権返還時の米軍基地関連の収入は全体の 15%を占めていたが、その後産業や流通、観光事業などの進展で現在はほぼ 5%以内である。(沖縄県のホームページを参照のこと)。Aグループで「思う」比率は 66%となって事実と逆の理解むしろ誤解がある。これに何が起因するのか究明が必要である。Dグループでは 49%が「思う」としている。これについても誤解を解く必要がある。

V18 二七年間にわたる米国の統治によって、沖縄の人々の生活様式は、かなり米国化している。

実質的には 1945 年からの連合軍(主体は米軍)の占領から始まって 1952 年のサンフランシスコ講和条約による米軍政下の占領状態を経て施政権返還までの 27 年間、沖縄住民は米国軍人軍属と接触して暮らしてきた。米国人のライフスタイルを観察し、あるいは模倣することで米国化する環境にあった。AグループとDグループのイメージは真逆の様相を呈している。Aグループは米国化について肯定的であり、Dグループは否定的で

ある。「米国化」イメージそのものにAとDの間に差異があるのかもしれない。

V21 沖縄県外者が沖縄の人を結婚の相手として選ぶ場合に、沖縄の人であるという理由で反対されやすい。

社会文化的に日本（本土）と沖縄の間には「差別－偏見」問題が横たわっているのかもしれない。沖縄人差別として沖縄県民感情を刺激した明治期における「人類館事件」が想起されるだろう（大田良博、1983,506 頁参照のこと）。「思う」者はほとんどいない（6%）。

「思わない」のはAグループで 66%、Dグループで 86%であり、差異が認められる。Aグループには、何かしらわだかまりがある、と考えられる。

V24 沖縄の米軍基地は各都道府県に分散する必要がある。

鳩山由紀夫総理大臣（当時）が、普天間基地移設に関して「最低でも県外」を主張し、後に撤回したのではあったが、米軍基地の移設可能性の選択肢が大きく広がった。つまり、沖縄だけに基地負担させることの不平等感について強く意識されるようになった。

そこで芽生えたのが平等な基地負担として米軍基地の各都道府県への分散配置の機運である。「思う」比率はAグループで 58%、Dグループで 24%となっている。「思わない」の比率はそれぞれ 16%と 36%であり、A、D間でドラスティックなイメージの違いとなっている。

V27 日米安保条約は日本の平和と安全に役立っている。

現在の日米関係の中軸は日米同盟だとされる。その基盤は日米安保条約である。日本の安全は米国によって守られている、との風潮である。「思う」「思わない」のAグループとDグループの比率は逆になっている。Aグループは否定的であり、Dグループは肯定的である。

V29 米国は、沖縄の基地を自由に使って、外国を攻撃してきた。

歴史的事実としては、米軍はベトナム戦争、湾岸戦争時に沖縄基地から出撃している。大まかには学生たちは「どちらともいえない」（46%）としている。なお、Aグループ（34%）はDグループ（16%）の倍以上の比率で「思う」としている。

V30 沖縄の人々は何か問題（災難や病気など）が起こると、ユタ（巫女・シャーマン）に相談することが多い。

「ユタ」の民俗社会的な理解が問題となるだろう。「ユタ」とは神がかり状態で霊的能力を得て、託宣、卜占、病気治療などを行う呪術・宗教的職能者（加藤、1983）であり、個人や家庭に心配事があるとき解決指針を求めてユタを訪れる。主婦層を中心とする行動様式を「ユタコーヤー」と称する。（加藤、1983）。Aグループでは「思う」が 55%、Dグループで 6%である。Dグループでは 44%が「どちらともいえない」としているが、「分からない」から「どちらともいえない」としているのかもしれない。Cグループでは「思う」が 27%となっており、沖縄で暮らすことがその認知に影響しているかもしれない。

V32 日本政府の米軍事基地優先政策は、沖縄住民の人権侵害を引き起こしている。

全体的に人権侵害を引き起こしている、と「思う」(59%)としている。その中でのAグループがより「思う」としている。Cグループ、Dグループでも50%以上が「思う」としているので、米軍基地優先政策の見直しが喫緊の課題と認知していることになるだろう。

V35 今後ますます、国土防衛、戦争肯定の教育が強調されるおそれがある。

教育基本法の改訂(2006年)で郷土愛(愛国心)を規定し、道徳の科目化の動きがあり、沖縄県八重山での社会科教科書の選定をめぐる文科省の圧力問題など、自由裁量の余地がせばまりつつある。Aグループで「思う」のは46%、Dグループでは34%、となっている。近代日本教育史を通覧すると道徳教育の強調と戦争の間に関連が認められることに注意を喚起する必要があるだろう。

2. 2 パターン②に属する項目について検討する。

V19 沖縄の中小企業や業者は、本土系企業や商人と対等に競争している。

Aグループの「思わない」比率(60%)はDグループの比率(33%)の約2倍(60%)に達している。「温度差」が認められる。

V22 日本政府は、沖縄における米軍基地に関わる事件、事故、犯罪の処理に対して適切に対応している。

全般的には適切に対処していない(74%)ようである。特にAグループでは83%が「思わない」としており、不満は高い。Dグループでは68%が「思わない」となっており、「温度差」が表れている。

2. 3 Aグループ、Dグループの「思う」が＋のパターンの項目について検討する。

V5 沖縄県民は、米軍基地負担状況について、もっと強く主張すべきである。

全体的には50%が「思う」としている。C、Dグループは40%である。一方A、Bグループは50%を超える。Bグループの方がAグループより「思う」比率が高めになっている。Bグループの者は、故郷を離れることで沖縄の置かれた状況は他府県とは違うことに気づき、Aグループの者よりも「主張」する思いが強いのかかもしれない。

V6 政府の援助により沖縄の産業は開発されている。

この設問に対しては「どちらでもない」の比率が高く、「思う」比率がDグループよりAグループの方が高いのは、補助金等の制度があることによるのだろうか。「温度差」が認められる。

V7 沖縄の人々は県外者よりも戦争の危険に対して敏感である。

戦時中は日本本土と沖縄といわず、同じように辛酸を舐めたものと推察される。しかし沖縄県では地上戦が戦われ、敵兵士に追われ塗炭の苦しみを味わったことが今に続いているものと考えられる。Aグループの「思う」の比率は77%、Dグループでは64%である。ここにも「温度差」が認められるのである。

V31 日本政府の社会保障制度のおかげで沖縄の人々は貧困や病気から大方救済されている。

米国から日本国への沖縄に対する施政権が返還されたのを機に、日本の諸制度が沖縄県にも布かれた。年金制度や健康保険制度が整うにつれて、経済的、医療的に恩恵を受けることができるようになった。AグループとDグループの差異が認められる。Bグループで「思わない」の比率が34%あり、沖縄県外からの視点では、諸手を挙げて「思う」わけにはいかないようである。また、CグループはDグループより「思う」比率が高く、沖縄に居住することで状況認知に「温度差」が生じているかの如くである。

2. 4 AグループとDグループの「思わない」がA+D-のパターンの項目について検討する。

V11 日本政府は、沖縄の人々の生活を安定させ、差別をなくすように努力している。

米国から日本国への施政権返還後の沖縄の状況についての設問である。「思う」者はほとんどいない。「思わない」比率はDグループよりAグループで高い比率となっている。当事者である沖縄出身者にとって日本政府の「沖縄統治」施策の不満が表明されていると考えられる。AグループとDグループの間には「温度差」が認められる。

V23 本土企業の沖縄進出は、沖縄の経済の発展に役立っている。

本土企業の沖縄進出を歓迎する結果である。Aグループの「思わない」比率は16%と高くはないが、Dグループの8%の2倍の比率で、「温度差」が表れている。

V34 日本政府は、沖縄の企業を保護育成している。

日本政府の沖縄企業施策を肯定するものは少ない。否定的反応はAグループで47%、Dグループで31%となっており、「温度差」が認められる。

2. 5 AグループとDグループの「思わない」が-+のパターンの項目について検討する。

V4 現在、戦争の危険性が高まりつつある。

戦争の危険性の高まりは沖縄社会に限ったことではない。日本社会に戦争不安が高まりつつあることを思わせる。「思わない」比率はAグループがDグループより低い。「温度差」が認められる。

V16 沖縄に駐留する米国の軍人は、沖縄住民を劣等な人間と考えている。

サンフランシスコ講和条約発効後も沖縄は米軍の軍政下にあり、占領政策が引き続いたような沖縄の社会状況である。占領者ないし統治者は優勢な権力を行使し、住民は占領者に対して劣等感を持つことが多かったかもしれない。Aグループの「思わない」の比率は理論値より有意に低く(-2.0)、Dグループは有意に高い(+2.2)。「温度差」が認められる。

V20 米国は、民主主義を守る名目で戦争を始めがちである。

一般に、米国は民主主義の国だ、とされているだろう。世界に民主主義を普及する使命感に溢れているかのように中国やその他の国に対して民主主義や人権尊重を主張している。米国のそのような行動に対してAグループの「思わない」比率(13%)はDグループの23%よりも低い。Bグループの「思う」比率は最も高くなっている。

V25 米国の経済は、軍事産業によって支えられている面が大きい。

米国の国家歳出に占める軍事予算は30%を超える(2000年)、国防予算は2800億ドル(2000年)を超える(広瀬、2001年、による)。軍需品のすそ野は広い。武器弾薬は言うまでもなく、軍装備品、医薬品、糧食、日用雑貨、もちろん人件費等、ほとんどが使いきりである。武器弾薬は輸出品でもあるが、政府調達(納入)品なので大きな利益が見込まれる。イメージとしては米国経済が軍事産業に支えられているとするのは自然であろう。Aグループでは「思う」の比率が理論値より有意に高く(+2.2)、「思わない」が有意に低い(-3.0)。Dグループの「思わない」比率は理論値より有意に高い。こうしてここでも「温度差」が認められる。

3 多重比較

比率の同質性の検定において有意となった質問項目について、どのグループ間に有意差が生じているかを検討する。比較は、①AグループとBグループ、②AグループとCグループ、③AグループとDグループ、④BグループとCグループ、⑤BグループとDグループ、⑥CグループとDグループ、の6ペアについて行った。統計分析はノンパラメトリック法のKruskal-Wallis検定を行った。比較が6回行われたのでペアごとの有意水準は6倍にして検討した。 $\alpha = .05$ とした。(附表2を参照)

- ① AグループとBグループ：4グループ間の一括分析で有意となったのは35項目中31項目であった。多重比較の結果、これらの項目で有意な差異は検出されなかった。AグループとBグループ間の比率の同質性が認められる、ということである。つまり沖縄出身の大学生は異郷にあってもアンカーグループとイメージが懸隔してはいない。
- ② AグループとCグループ：沖縄に居住する沖縄県外学生と沖縄県学生との間にイメージの違いがあるかが検討された。20項目について有意差は認められなかった。有意水準を $p < .10$ として有意差が検出されたのは、V11 政府は差別をなくすように努力している($p = .067$)、V20 米国は民主主義を名目に戦争する($p = .051$)、の2項目であった。交差グループにあっては沖縄イメージに大きな違いがあるとは言えないことになる。
- ③ AグループとDグループ：アンカーグループ間の比較である。有意差が検出されたのは27項目であった。有意とならなかった項目は、V16 沖縄に駐留する米国の軍人は沖縄住民を劣等な人間と考えている($p = .088$)、V20 米国は民主主義を名目に戦争する($p = .073$)、V28 若い世代の戦争意識、V31 日本政府は沖縄人を救済した、の4項目であった。両グループ間に沖縄イメージの隔たり、すなわち「温度差」のあることが明らかになった。

- ④ BグループとCグループ：どちらのグループも故郷を離れて異郷に暮らす大学生たちである。異郷に生活するグループ間に沖縄イメージに違いがあるかが検討された。違いが有意にならなかったのは 22 項目であった。ほとんどの項目で認知に大きな差異のないことが分かる。有意となった項目は、V7 沖縄人は戦争の危険に敏感、V9 沖縄語は保護奨励、V10 生活習慣の違いで肩身の狭い思い、V14 沖縄は独立すべき、V20 米国は民主主義を名目に戦争する、V34 政府は沖縄の企業を保護育成している、V35 国土防衛教育が強調される、の 7 項目であった。これらの項目で「温度差」が認められた。
- ⑤ BグループとDグループ：沖縄県外で暮らす沖縄出身大学生の沖縄イメージが異郷の学生たちに同調するかが検討された。20 項目で違いが有意になった ($p<.05$)。有意水準を $p<.10$ とすれば 23 項目になる。Bグループの沖縄認知はDグループに接近することはほとんどない、という結果である。
- ⑥ CグループとDグループ：沖縄県外グループ出身者内での居住地の違いで、認知に違いがあるかを検討する。概括的な分析で有意となったのは 31 項目あったが、多重比較の検定結果 11 項目において有意差が認められた。V8 沖縄は米軍基地の故に国際紛争に巻き込まれる、V15 米軍基地は沖縄経済に貢献している、V19 沖縄の中小企業は対等に競争、など沖縄に居住することでアンカー集団とは異なるイメージを形成しているのであろう。

4 交差アンカー

交差アンカーとは、自らの出自と相対するアンカー・グループである。Bグループに対してはDグループ、Cグループに対してはAグループである。自らのアンカーからは有意に離脱し、交差アンカーに同調する場合は認知の変容が生じていることが示唆されるだろう。

Bグループについては、認知の変容を示す項目は認められなかった。一方Cグループについては次の 7 項目において変容が認められた。($P<.05$) V6 政府の援助により沖縄の産業は開発されている。V12 米国援助の留学制度、V13 沖縄はつまらなく弱い、V14 沖縄は日本から独立したほうがよい、V15 米軍基地関連収入、V18 沖縄人の生活は米国化、V21 沖縄人を理由に結婚反対される。

5 基地イメージ

沖縄問題では、米軍基地問題がしばしば取り沙汰にされる。基地にかかわる項目について沖縄イメージの「温度差」について考察する。統計的分析としてはコレスポンデンス分析を用いる。設問に対する回答と地域グループの相対的位置関係を示すことによりイメージとグループの関係を把握することにする。

① 米軍基地と人権 (V32)

図 1 は日本政府の米軍基地優先政策が、沖縄住民の人権侵害に関してどのように認知されているかを示している。横軸（次元1）は、設問に対する肯定 / 否定の態度を明らかにしている。グループの並びは肯定する（マイナス側）から否定する側にA→B→C→Dとなっている。プラス側は否定するというより「どちらともいえない」スタンスである。沖縄県出身者は肯定的であり、県の内外どちらに居住していてもほぼ同一のイメージを有していることが示唆される。県外者においては次元 2 において正負に分かれており、沖縄に居住することによってDアンカーグループから分離する気配がある。「温度差」のあることが示されている。

② 米軍基地の沖縄県外への分散配備 (V24)

図 2 は、沖縄の米軍施設設備（米軍基地）を県外に移転することを問う設問への回答を分類したものである。次元 1 は回答カテゴリーの軸である。日本国に配備された米軍基地（施設・設備）の約 74%が沖縄に配置されている。過重な米軍基地を再配置することに対して、沖縄出身者は居住の違いにもかかわらず県外分散を求めていることがわかる。Dグループは沖縄県外配置を「思わない」とする。明白に「温度差」が露出している。なお、県外者のCグループはアンカーグループのDグループからいくらか距離のあることが分かる。回答カテゴリーとしては「どちらともいえない」というスタンスである。グループ間に「温度差」があることを示している。

③ 米軍基地に関わる事件事故の処理 (V22)

図 3 は、米軍基地にかかわる事件事故の処理の適切さを問う分類結果である。次元 1 は回答カテゴリーを思わない→どちらともいえない→思うに配置している。沖縄県出身者は適切に対応していない、としている。A、Bグループは適切に処理しているとは考えない。A、Bグループは適切に処理していない、と明白である。C、Dグループはやや中立的な位置にある。

④ 米軍基地と国際紛争 (V8)

図4は、米国の軍事基地があるため国際紛争に巻き込まれる不安を捉えている。横軸（次元 1）は回答カテゴリーを、思う→どちらともいえない→思わない、に配置している。Dグループは思わない方向へ、Cグループはどちらともいえない、Aグループは思うと近接している。BグループはAグループよりも、より「思う」度合いが強い。

⑤ 米軍基地と経済 (V15)

図 5 は米軍基地と基地経済に関するイメージを捉えている。縦軸は回答カテゴリーを下から上へ思わない→どちらともいえない→思うに配置している。米軍基地は基地経済に大きな比重を占めている、と考えるのがほとんどである。その思いはBグループで顕著である。Cグループが「思う」により近接している。沖縄に居住する県外者にはより強く基地依存経済として沖縄経済が捉えられている。

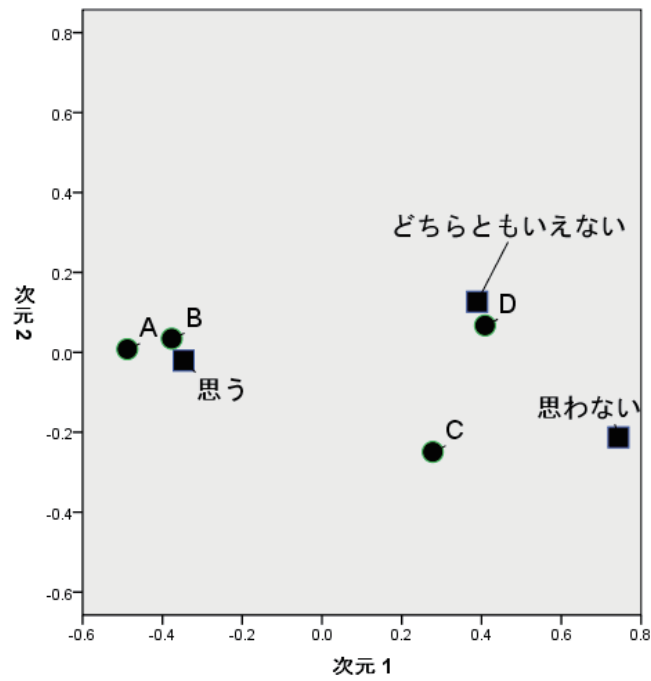


図1 V32 とグループ

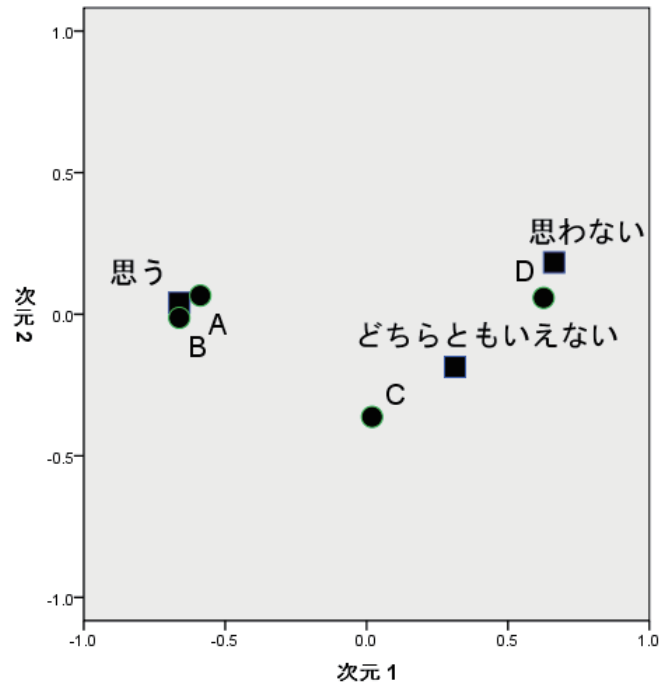


図2 V24 とグループ

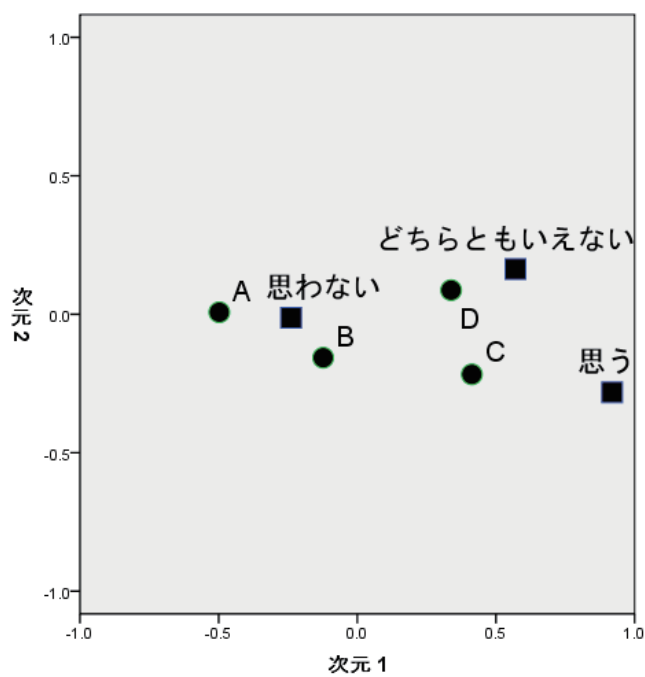


図 3 V22 とグループ

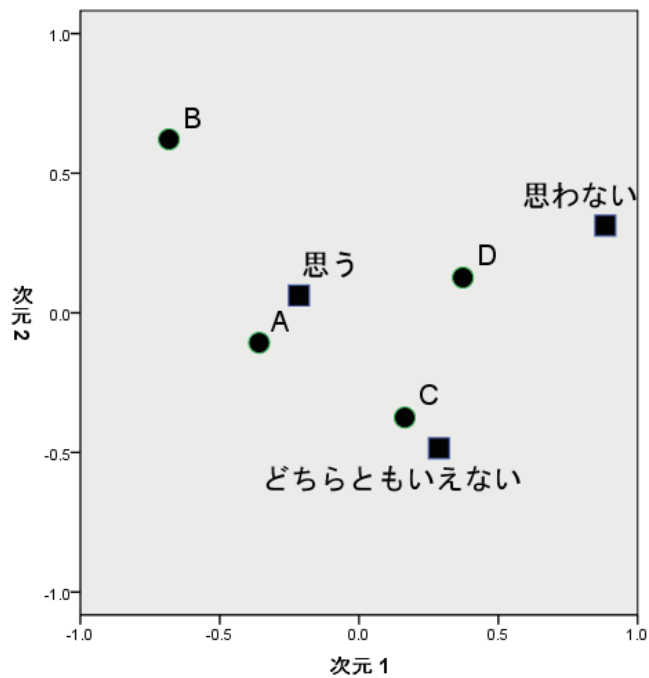


図 4 V8 とグループ

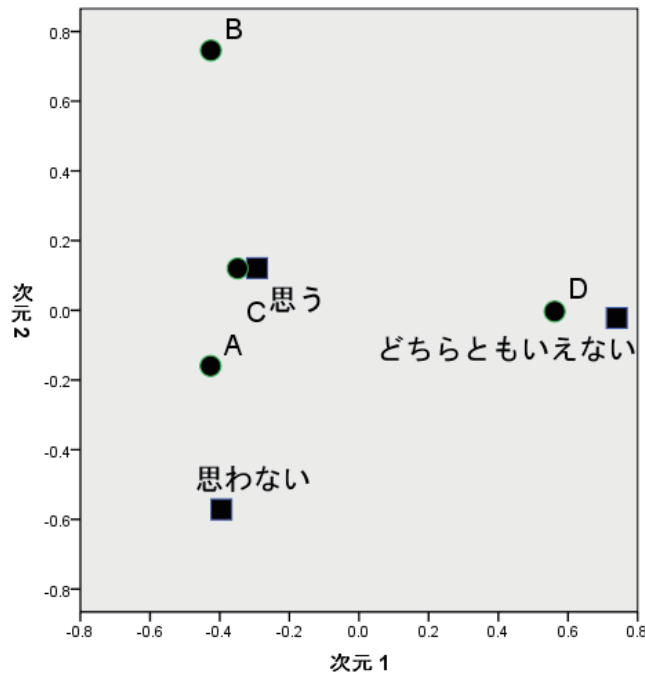


図5 V 15 とグループ

結論と残された問題

沖縄県内外の大学生を対象に、沖縄の社会政治文化イメージについてアンケート調査を実施した。沖縄イメージに地域間差があるかを検討した。調査協力者を、A: 沖縄出身で沖縄居住者、B: 沖縄出身で沖縄県外居住者、C: 沖縄県外出身者で沖縄県内居住者、D: 沖縄県外出身者で沖縄県外居住者に分類し、これら4者間の沖縄イメージに差異(温度差)があるかを検討した。カイ二乗検定の結果は35設問中33設問で有意となった。つまり四者の沖縄イメージ間に差異があることが明らかになった。特にAとD間にイメージが逆転していることが明らかになった。Bについては、居住地の成員(D)が持つイメージに同調することはほとんどなかった。CについてはDから離れ、Aに同調するケースが若干認められた。

沖縄イメージについて沖縄県の大学生と県外の大学生間に差異のあることが明らかになった。沖縄の状況についておそらく事実と反したイメージが持たれているケースがあるので、「事実」を正しく伝える必要がある、と考える。

リサーチ・クエスチョンについては次のように結論できる。

- ① AグループとDグループの違いが有意となりリサーチ・クエスチョン①は支持されたと考える。
- ② AグループとBグループ間では差異が有意になることはなく接近している。「同調」を保持していると考えられる。また、Bグループの沖縄イメージはDグループに「接近」

することがほとんどない。リサーチ・クエスチョン②は支持されない。

- ③ C グループとDグループ間では有意差が生じた項目が三分の一ほどあり、比率の同一性の保持が否定される場合がある。リサーチ・クエスチョン③は一部支持された、と考える。

今回の調査研究は大学生を調査対象としたもので、地域間差を中心に検討した。性差の分析は今後の課題としたい。世代間の「温度差」を把握するための調査が残されている。また、全国の米軍基地の所在する地域間の比較研究が必要だと考える。

参考・引用文献

- 広瀬隆 2001 『アメリカの巨大軍需産業』 集英社
 加藤正春 1983 「ユタ」『沖縄大百科事典』 下 沖縄タイムス社 pp.781-782.
 加藤正春 1983 「ユタコーヤー」『沖縄大百科事典』 下 沖縄タイムス社 p.782.
 中村 完、他（編著）2005 『復帰後沖縄における社会不安に関する継続的研究』
 琉球大学社会不安研究会
 宮城悦二郎 1983 「金門クラブ」『沖縄大百科事典』 下 沖縄タイムス社 p.927
 沖縄百科事典刊行事務局（編）1983 『沖縄大百科事典』 上、中、下 沖縄タイムス社
 大城亘武、中村 完、與久田 巖 2014 「マジョリティの中のマイノリティ、マイノリティの中のマジョリティ」『沖縄心理学研究』 第 37 号 pp.10-11.
 与那嶺松助、他 1981 「復帰不安の研究」琉球大学心理学教室（編）『与那嶺松助教授記念論文集』 與那嶺松助教授追悼記念事業会

ホームページ

<http://www.pref.okinawa.jp/site/kikaku/chosei/kikaku/yokuaru-beigunkichiandokinawakizai.html>（沖縄県のホームページ、基地経済への依存度は、昭和 47 年の復帰直後の 15.5%から平成 23 年度には 4.9%と大幅に低下しています。）

〔付記〕

本研究を実施するにあたり、川浦康至先生（東京経済大学）、高良美樹先生（琉球大学）、山本健司先生（名桜大学）、緒方修先生（沖縄大学）、須藤義人先生（沖縄大学）、金永秀先生（沖縄キリスト教学院大学）、浜川仁先生（沖縄キリスト教学院大学）、（井上佳郎先生（九州大学）、大嶺和歌子先生（琉球大学）、識名昇様（南灯寮）、新里健先生（沖縄県立芸術大学）よりご協力をいただきました。記して感謝申し上げます。調査にご協力いただきました学生諸氏に感謝申し上げます。

〔追記〕

1. 本稿の一部分は、日本社会心理学会第 54 回大会（2013 年 11 月、於沖縄国際大学）

のシンポジウム「見える沖縄見えない沖縄」において口頭発表したものである。

2. 本稿の執筆にあたり、中村 完先生（琉球大学）、與久田 巖先生（大阪夕陽丘学園短期大学）のご協力をいただきました。記して感謝申し上げます。

附表1 グループ×設問項目のクロス表およびカイ二乗値、自由度、漸近有意確率

凡例

グループ

A：沖縄県出身者で沖縄県内に居住する者

B：沖縄県出身者で沖縄県外に居住する者

C：沖縄県外出身者で沖縄県内に居住する者

D：沖縄県外出身者で沖縄県外に居住する者

			グループ				合計
			A	B	C	D	
v1将来、日本政府は沖縄を再び外国の施政権下に置く可能性がある。	思う	度数	103	15	32	61	211
		グループの%	24%	21%	22%	13%	19%
		調整済み残差	3.46	.60	1.01	-4.39	
	どちらともいえない	度数	104	22	29	87	242
		グループの%	24%	31%	20%	18%	21%
		調整済み残差	1.66	2.09	-.56	-2.28	
	思わない	度数	225	33	86	329	673
		グループの%	52%	47%	59%	69%	60%
合計		調整済み残差	-4.15	-2.22	-.34	5.40	
		度数	432	70	147	477	1126
			グループの%	100%	100%	100%	100%

カイ二乗/自由度/有意確率

36.063

6

.000

			グループ				合計
			A	B	C	D	
v2沖縄の人が沖縄語（ウチナーグチ、沖縄方言）を使うと、他府県の人にはそれを軽蔑的な目で見える	思う	度数	35	6	10	11	62
		グループの%	8%	9%	7%	2%	6%
		調整済み残差	3.0	1.2	.7	-4.05	
	どちらともいえない	度数	50	9	11	33	103
		グループの%	12%	13%	7%	7%	9%
		調整済み残差	2.25	1.11	-.75	-2.24	
	思わない	度数	346	55	126	434	961
		グループの%	80%	79%	86%	91%	85%
合計		調整済み残差	-3.79	-1.66	.14	4.44	
		度数	431	70	147	478	1126
			グループの%	100%	100%	100%	100%

カイ二乗/自由度/有意確率

26.214

6

.000

			グループ				合計
			A	B	C	D	
v3日本の大企業は、次第に軍事産業に手を伸ばしつつある。	思う	度数	116	19	28	90	253
		グループの%	27%	27%	19%	19%	22%
		調整済み残差	2.80	.963	-1.027	-2.528	
	どちらともいえない	度数	139	20	56	152	367
		グループの%	32%	29%	38%	32%	33%
		調整済み残差	-.21	-.75	1.58	-.51	
	思わない	度数	176	31	62	236	505
		グループの%	41%	44%	42%	49%	45%
合計		調整済み残差	-2.15	-0.10	-0.63	2.60	
		度数	431	70	146	478	1125
			グループの%	100%	100%	100%	100%

カイ二乗/自由度/有意確率

13.843

6

.031

			グループ				合計
			A	B	C	D	
v4現在、戦争の危険性が高まりつつある。	思う	度数	256	38	83	251	628
		グループの%	59%	54%	56%	53%	56%
		調整済み残差	1.88	-.25	.19	-1.86	
	どちらともいえない	度数	117	18	42	117	294
		グループの%	27%	26%	29%	24%	26%
		調整済み残差	.60	-.07	.74	-1.06	
	思わない	度数	59	14	22	110	205
		グループの%	14%	20%	15%	23%	18%
合計		調整済み残差	-3.11	.41	-1.09	3.60	
		度数	432	70	147	478	1127
		グループの%	100%	100%	100%	100%	100%

カイ二乗/自由度/有意確率

14.843

6

.022

			グループ				合計
			A	B	C	D	
v5沖縄県民は、米軍基地負担状況について、もっと強く主張すべきである。	思う	度数	245	45	59	214	563
		グループの%	57%	64%	40%	45%	50%
		調整済み残差	3.57	2.45	-2.51	-3.01	
	どちらともいえない	度数	132	15	53	189	389
		グループの%	31%	21%	36%	40%	35%
		調整済み残差	-2.21	-2.39	.46	3.03	
	思わない	度数	54	10	34	74	172
		グループの%	13%	14%	23%	16%	15%
合計		調整済み残差	-2.0	-.2	2.9	.2	
		度数	431	70	146	477	1124
		グループの%	100%	100%	100%	100%	100%

カイ二乗/自由度/有意確率

29.460

6

.000

			グループ				合計
			A	B	C	D	
v6政府の援助により沖縄の産業は開発されている。	思う	度数	156	33	50	98	337
		グループの%	36%	47%	34%	21%	30%
		調整済み残差	3.62	3.25	1.16	-5.93	
	どちらともいえない	度数	118	15	34	158	325
		グループの%	27%	21%	23%	33%	29%
		調整済み残差	-.87	-1.42	-1.65	2.67	
	思わない	度数	431	70	147	478	1126
		グループの%	100%	100%	100%	100%	100%

カイ二乗/自由度/有意確率

41.142

6

.000

			グループ				合計
			A	B	C	D	
v7沖縄の人々は県外者よりも戦争の危険に対して敏感である。	思う	度数	331	57	88	305	781
		グループの%	77%	81%	60%	64%	69%
		調整済み残差	4.20	2.27	-2.66	-3.43	
	どちらともいえない	度数	58	5	31	113	207
		グループの%	13%	7%	21%	24%	18%
		調整済み残差	-3.38	-2.50	.91	3.92	
	思わない	度数	43	8	28	60	139
		グループの%	10%	11%	19%	13%	12%
合計		調整済み残差	-1.92	-.24	2.65	.19	
		度数	432	70	147	478	1127
		グループの%	100%	100%	100%	100%	100%

カイ二乗/自由度/有意確率

34.590

6

.000

			グループ				合計
			A	B	C	D	
v8米国の軍事基地があるために、沖縄は国際紛争にまきこまれる可能性が高い。	思う	度数	328	59	98	316	801
		グループの%	76%	84%	67%	66%	71%
		調整済み残差	2.92	2.49	-1.19	-3.28	
	どちらともいえない	度数	70	6	30	83	189
		グループの%	16%	9%	21%	17%	17%
		調整済み残差	-1.38	-1.90	1.29	.42	
	思わない	度数	32	5	18	79	134
		グループの%	7%	7%	12%	17%	12%
		調整済み残差	-3.65	-1.27	.16	4.10	
合計	度数	430	70	146	478	1124	
	グループの%	100%	100%	100%	100%	100%	

カイ二乗/自由度/有意確率

26.619

6

.000

			グループ				合計
			A	B	C	D	
v9沖縄語（ウチナーグチ、沖縄方言）は保護・奨励すべきである。	思う	度数	383	61	100	306	850
		グループの%	89%	87%	68%	64%	75%
		調整済み残差	8.11	2.34	-2.26	-7.58	
	どちらともいえない	度数	37	5	36	116	194
		グループの%	9%	7%	24%	24%	17%
		調整済み残差	-6.07	-2.31	2.50	5.40	
	思わない	度数	12	4	11	55	82
		グループの%	3%	6%	7%	12%	7%
		調整済み残差	-4.59	-1.52	1.10	4.70	
	合計	度数	432	70	147	477	1126
グループの%		100%	100%	100%	100%	100%	

カイ二乗/自由度/有意確率

85.861

6

.000

			グループ				合計
			A	B	C	D	
v10沖縄出身者が本土で働く場合、（生活習慣や生活様式がちがうために）肩身の狭い思いをしている。	思う	度数	124	17	19	45	205
		グループの%	29%	24%	13%	9%	18%
		調整済み残差	7.22	1.36	-1.78	-6.55	
	どちらともいえない	度数	117	21	46	127	311
		グループの%	27%	30%	31%	27%	28%
		調整済み残差	- .29	.46	1.06	- .66	
	思わない	度数	190	32	82	305	609
		グループの%	44%	46%	56%	64%	54%
		調整済み残差	-5.33	-1.46	.43	5.66	
合計	度数	431	70	147	477	1125	
	グループの%	100%	100%	100%	100%	100%	

カイ二乗/自由度/有意確率

68.784

6

.000

			グループ				合計
			A	B	C	D	
v11日本政府は、沖縄の人々の生活を安定させ、差別をなくすように努力している。	思う	度数	45	13	19	48	125
		グループの%	10%	19%	13%	10%	11%
		調整済み残差	- . 57	2. 06	. 76	- . 96	
	どちらともいえない	度数	126	19	58	224	427
		グループの%	29%	27%	39%	47%	38%
		調整済み残差	-4. 76	-1. 91	. 42	5. 33	
	思わない	度数	261	38	70	206	575
		グループの%	60%	54%	48%	43%	51%
		調整済み残差	4. 97	. 56	- . 88	-4. 57	
合計	度数	432	70	147	478	1127	
	グループの%	100%	100%	100%	100%	100%	

カイ二乗/自由度/有意確率

39.528

6

.000

			グループ				合計
			A	B	C	D	
v12戦後米軍援助による米国留学の制度は、今日の沖縄の文化的・社会的発展に貢献した。	思う	度数	214	28	54	100	396
		グループの%	50%	40%	37%	21%	35%
		調整済み残差	7.9	.87	.48	-8.58	
	どちらともいえない	度数	178	31	77	282	568
		グループの%	41%	44%	53%	59%	50%
		調整済み残差	-4.92	-1.07	.58	4.97	
	思わない	度数	40	11	15	95	161
		グループの%	9%	16%	10%	20%	14%
		調整済み残差	-3.82	.35	-1.49	4.61	
	合計	度数	432	70	146	477	1125
グループの%		1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	

カイ二乗/自由度/有意確率

88.307

6

.000

			グループ				合計
			A	B	C	D	
v13沖縄住民には、沖縄はつまらないところで、自分たちは弱いものだと考えている人が多い。	思う	度数	69	7	15	13	104
		グループの%	16%	10%	10%	3%	9%
		調整済み残差	6.17	.23	.44	-6.48	
	どちらともいえない	度数	82	10	32	79	203
		グループの%	19%	14%	22%	17%	18%
		調整済み残差	.67	-.84	1.27	-1.11	
	思わない	度数	281	53	100	386	820
		グループの%	65%	76%	68%	81%	73%
		調整済み残差	-4.59	.57	-1.38	5.17	
合計	度数	432	70	147	478	1127	
	グループの%	100%	100%	100%	100%	100%	

カイ二乗/自由度/有意確率

54.200

6

.000

			グループ				合計
			A	B	C	D	
v14沖縄県は、日本から独立した方がよい。	思う	度数	46	15	14	8	83
		グループの%	11%	21%	10%	2%	7%
		調整済み残差	3.34	4.64	1.09	-6.30	
	どちらともいえない	度数	101	14	20	40	175
		グループの%	23%	20%	14%	8%	16%
		調整済み残差	5.76	1.06	-.67	-5.73	
	思わない	度数	283	41	112	430	866
		グループの%	66%	59%	77%	90%	77%
		調整済み残差	-7.0	-3.8	-.1	8.9	
合計	度数	430	70	146	478	1124	
	グループの%	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	

カイ二乗/自由度/有意確率

102.100

6

.000

			グループ				合計
			A	B	C	D	
v15米軍基地関連収入は、沖縄経済に大きな比重を占めている。	思う	度数	282	50	96	234	662
		グループの%	66%	71%	65%	49%	59%
		調整済み残差	3.6	2.2	1.7	-5.8	
	どちらともいえない	度数	87	14	33	201	335
		グループの%	20%	20%	22%	42%	30%
		調整済み残差	-5.51	-1.85	-2.08	7.74	
	思わない	度数	61	6	18	43	128
		グループの%	14%	9%	12%	9%	11%
		調整済み残差	2.3	-0.76	0.36	-2.16	
合計	度数	430	70	147	478	1125	
	グループの%	100%	100%	100%	100%	100%	

カイ二乗/自由度/有意確率

62.368

6

.000

			グループ				合計
			A	B	C	D	
v16沖縄に駐留する 米国の軍人は、沖 縄住民を劣等な人 間と考えている。	思う	度数	113	20	30	101	264
		グループの%	26%	29%	20%	21%	23%
		調整済み残差	1.72	1.04	-1.94	-1.56	
	どちら ともい えない	度数	158	27	54	163	402
		グループの%	37%	39%	37%	34%	36%
		調整済み残差	.51	.51	.27	-1.94	
	思わな い	度数	160	23	63	213	459
		グループの%	37%	33%	43%	45%	41%
		調整済み残差	-2.0	-1.40	.54	2.26	
合計	度数		431	70	147	477	1125
		グループの%	100%	100%	100%	100%	100%

カイ二乗/自由度/有意確率 8.850 6 .182

			グループ				合計
			A	B	C	D	
v17米国は、特定の 国を極度に危険視 し嫌う傾向があ る。	思う	度数	197	30	51	212	490
		グループの%	46%	43%	35%	44%	44%
		調整済み残差	1.24	-1.13	-2.33	.44	
	どちら ともい えない	度数	135	22	67	140	364
		グループの%	31%	31%	46%	29%	32%
		調整済み残差	-.5	-.18	3.67	-1.91	
	思わな い	度数	97	18	29	126	270
		グループの%	23%	26%	20%	26%	24%
		調整済み残差	-.87	.34	-1.31	1.58	
合計	度数		429	70	147	478	1124
		グループの%	100%	100%	100%	100%	100%

カイ二乗/自由度/有意確率 15.378 6 .018

			グループ				合計
			A	B	C	D	
18二七一年間にわた る米国の統治に よって、沖縄の 人々の生活様式 は、かなり米国化 している。	思う	度数	253	36	82	86	457
		グループの%	59%	51%	56%	18%	41%
		調整済み残差	9.8	1.9	4.0	-13.3	
	どちら ともい えない	度数	102	21	32	159	314
		グループの%	24%	30%	22%	33%	28%
		調整済み残差	-2.46	.40	-1.78	3.44	
	思わな い	度数	75	13	33	233	354
		グループの%	17%	19%	22%	49%	31%
		調整済み残差	-7.97	-2.40	-2.53	10.73	
合計	度数		430	70	147	478	1125
		グループの%	100%	100%	100%	100%	100%

カイ二乗/自由度/有意確率 195.147 6 .000

			グループ				合計
			A	B	C	D	
v19沖縄の中小企業 や業者は、本土系 企業や商人と対等 に競争している。	思う	度数	40	2	20	102	164
		グループの%	9%	3%	14%	21%	15%
		調整済み残差	-3.97	-2.87	-1.36	5.55	
	どちら ともい えない	度数	132	29	58	217	436
		グループの%	31%	41%	39%	45%	39%
		調整済み残差	-4.41	.47	.19	3.98	
	思わな い	度数	259	39	69	158	525
		グループの%	60%	56%	47%	33%	47%
		調整済み残差	7.11	1.57	.07	-7.81	
合計	度数		431	70	147	477	1125
		グループの%	100%	100%	100%	100%	100%

カイ二乗/自由度/有意確率 79.853 6 .000

			グループ				合計
			A	B	C	D	
v20米国は、民主主義を守る名目で戦争を始めがちである。	思う	度数	201	42	52	205	500
		グループの%	47%	60%	36%	43%	45%
		調整済み残差	1.12	2.69	-2.32	-.84	
	どちらともいえない	度数	176	18	64	160	418
		グループの%	41%	26%	44%	34%	37%
		調整済み残差	1.98	-2.06	1.77	-2.15	
	思わない	度数	54	10	30	111	205
		グループの%	13%	14%	21%	23%	18%
		調整済み残差	-3.92	-.89	.77	3.77	
合計	度数		431	70	146	476	1123
		グループの%	100%	100%	100%	100%	100%

カイ二乗/自由度/有意確率 29.863 6 .000

			グループ				合計
			A	B	C	D	
v21沖縄県外者が沖縄の人を結婚の相手として選ぶ場合に、沖縄の人であるという理由で反対されやすい。	思う	度数	35	6	12	14	67
		グループの%	8%	9%	8%	3%	6%
		調整済み残差	2.42	.95	1.23	-3.68	
	どちらともいえない	度数	110	20	30	51	211
		グループの%	26%	29%	21%	11%	19%
		調整済み残差	4.58	2.16	.58	-5.95	
	思わない	度数	285	44	104	411	844
		グループの%	66%	63%	71%	86%	75%
		調整済み残差	-5.47	-2.47	-1.20	7.41	
合計	度数		430	70	146	476	1122
		グループの%	100%	100%	100%	100%	100%

カイ二乗/自由度/有意確率 57.718 6 .000

			グループ				合計
			A	B	C	D	
v22日本政府は、沖縄における米軍基地関わる事件、事故、犯罪の処理に対して適切に対応している。	思う	度数	18	5	15	46	84
		グループの%	4%	7%	10%	10%	7%
		調整済み残差	-3.31	-.11	1.35	2.38	
	どちらともいえない	度数	56	12	34	107	209
		グループの%	13%	17%	23%	22%	19%
		調整済み残差	-3.80	-.32	1.52	2.85	
	思わない	度数	357	53	98	324	832
		グループの%	83%	76%	67%	68%	74%
		調整済み残差	5.35	.35	-2.16	-3.95	
合計	度数		431	70	147	477	1125
		グループの%	100%	100%	100%	100%	100%

カイ二乗/自由度/有意確率 31.550 6 .000

			グループ				合計
			A	B	C	D	
v23本土企業の沖縄進出は、沖縄の経済の発展に役立っている。	思う	度数	222	33	87	252	594
		グループの%	52%	47%	59%	53%	53%
		調整済み残差	-.71	-.99	1.65	.05	
	どちらともいえない	度数	141	22	46	184	393
		グループの%	33%	31%	31%	39%	35%
		調整済み残差	-1.25	-.64	-1.00	2.22	
	思わない	度数	68	15	14	40	137
		グループの%	16%	21%	10%	8%	12%
		調整済み残差	2.90	2.44	-1.06	-3.32	
合計	度数		431	70	147	476	1124
		グループの%	100%	100%	100%	100%	100%

カイ二乗/自由度/有意確率 20.900 6 .002

			グループ				合計
			A	B	C	D	
v24沖縄の米軍基地は各都道府県に分散する必要がある。	思う	度数	248	41	59	114	462
		グループの%	58%	59%	40%	24%	41%
		調整済み残差	8.85	3.07	-1.17	-10.09	
	どちらともいえない	度数	115	19	52	191	377
		グループの%	27%	27%	36%	40%	34%
		調整済み残差	-3.82	-1.17	.58	3.94	
	思わない	度数	68	10	35	173	286
		グループの%	16%	14%	24%	36%	25%
		調整済み残差	-5.85	-2.21	-.43	7.13	
合計	度数		431	70	146	478	1125
		グループの%	100%	100%	100%	100%	100%

カイ二乗/自由度/有意確率

122.309

6

.000

			グループ				合計
			A	B	C	D	
v25米国の経済は、軍事産業によって支えられている面が大きい。	思う	度数	235	42	65	224	566
		グループの%	55%	60%	44%	47%	50%
		調整済み残差	2.23	1.67	-1.58	-1.93	
	どちらともいえない	度数	154	21	61	170	406
		グループの%	36%	30%	41%	36%	36%
		調整済み残差	-.20	-1.10	1.46	-.27	
	思わない	度数	42	7	21	83	153
		グループの%	10%	10%	14%	17%	14%
		調整済み残差	-2.97	-.91	.26	3.19	
合計	度数		431	70	147	477	1125
		グループの%	100%	100%	100%	100%	100%

カイ二乗/自由度/有意確率

17.422

6

.008

			グループ				合計
			A	B	C	D	
v26日本の政治には少数意見や地方住民の意見が十分に反映されている。	思う	度数	18	4	8	29	59
		グループの%	4%	6%	5%	6%	5%
		調整済み残差	-1.26	.18	.13	1.06	
	どちらともいえない	度数	75	16	27	72	190
		グループの%	17%	23%	18%	15%	17%
		調整済み残差	.38	1.37	.55	-1.42	
	思わない	度数	337	50	111	377	875
		グループの%	78%	71%	76%	79%	78%
		調整済み残差	.33	-1.34	-1.57	.71	
合計	度数		430	70	146	478	1124
		グループの%	100%	100%	100%	100%	100%

カイ二乗/自由度/有意確率

4.808

6

.569

			グループ				合計
			A	B	C	D	
v27日米安保条約は日本の平和と安全に役立っている。	思う	度数	89	21	47	222	379
		グループの%	21%	30%	32%	46%	34%
		調整済み残差	-7.25	-.67	-.47	7.78	
	どちらともいえない	度数	167	29	60	175	431
		グループの%	39%	41%	41%	37%	38%
		調整済み残差	0.29	0.55	0.67	-1.01	
	思わない	度数	174	20	40	81	315
		グループの%	40%	29%	27%	17%	28%
		調整済み残差	7.32	.11	-.23	-7.10	
合計	度数		430	70	147	478	1125
		グループの%	100%	100%	100%	100%	100%

カイ二乗/自由度/有意確率

90.609

6

.000

			グループ				合計
			A	B	C	D	
v28戦争を知らない 若い世代の人たち の間で戦争反対の 気持ちが次第にう すれてきている。	思う	度数	242	48	75	242	607
		グループの%	56%	69%	51%	51%	54%
		調整済み残差	1.23	2.53	-1.77	-1.92	
	どちら ともい えない	度数	67	11	31	82	191
		グループの%	16%	16%	21%	17%	17%
		調整済み残差	-1.98	-1.29	1.42	.14	
	思わな い	度数	121	11	41	154	327
		グループの%	28%	16%	28%	32%	29%
		調整済み残差	-1.54	-2.54	-1.34	2.00	
	合計	度数	430	70	147	478	1125
		グループの%	100%	100%	100%	100%	100%

カイ二乗/自由度/有意確率 12.572 6 .050

			グループ				合計
			A	B	C	D	
v29米国は、沖縄の 基地を自由に使っ て、外国を攻撃し てきた。	思う	度数	146	23	28	76	273
		グループの%	34%	33%	19%	16%	24%
		調整済み残差	5.92	1.72	-1.60	-5.57	
	どちら ともい えない	度数	182	33	80	221	516
		グループの%	42%	47%	54%	47%	46%
		調整済み残差	-1.94	.20	2.20	.31	
	思わな い	度数	102	14	39	178	333
		グループの%	24%	20%	27%	37%	30%
		調整済み残差	-3.44	-1.83	-1.90	4.90	
合計	度数	430	70	147	475	1122	
	グループの%	100%	100%	100%	100%	100%	

カイ二乗/自由度/有意確率 54.836 6 .000

			グループ				合計
			A	B	C	D	
v30沖縄の人々は何 か問題（災難や病 気など）が起こる と、ユタ（巫女・ シャーマン）に相 談することが多 い。	思う	度数	236	28	40	29	333
		グループの%	55%	41%	27%	6%	30%
		調整済み残差	14.51	2.04	-1.65	-14.83	
	どちら ともい えない	度数	98	21	59	210	388
		グループの%	23%	30%	40%	44%	.3
		調整済み残差	-6.60	-1.75	1.58	5.79	
	思わな い	度数	97	20	47	236	400
		グループの%	23%	29%	32%	50%	36%
		調整済み残差	-7.28	-1.20	-1.94	8.39	
	合計	度数	431	69	146	475	1121
グループの%		100%	100%	100%	100%	100%	

カイ二乗/自由度/有意確率 263.523 6 .000

			グループ				合計
			A	B	C	D	
v31日本政府の社会 保障制度のおかげ で沖縄の人々は貧 困や病気から大方 救済されている。	思う	度数	141	18	46	95	300
		グループの%	33%	26%	32%	20%	27%
		調整済み残差	3.62	-1.21	1.38	-4.40	
	どちら ともい えない	度数	178	28	73	273	552
		グループの%	41%	40%	50%	57%	49%
		調整済み残差	-4.11	-1.60	1.19	4.70	
	思わな い	度数	110	24	27	107	268
		グループの%	26%	34%	18%	23%	24%
		調整済み残差	1.06	2.10	-1.65	-1.94	
合計	度数	429	70	146	475	1120	
	グループの%	100%	100%	100%	100%	100%	

カイ二乗/自由度/有意確率 39.771 6 .000

			グループ				合計
			A	B	C	D	
v32 日本政府の米軍 思う 事基地優先政策 は、沖縄住民の人 権侵害を引き起こ している。	度数 グループの% 調整済み残差	度数	296	46	75	240	657
		グループの%	69%	66%	52%	50%	59%
		調整済み残差	5.59	1.26	-1.79	-4.89	
	どちら ともい えない	度数	102	18	49	164	333
		グループの%	24%	26%	34%	34%	30%
		調整済み残差	-3.41	- .75	1.16	2.92	
	思わな い	度数	31	6	21	74	132
		グループの%	7%	9%	14%	15%	12%
		調整済み残差	-3.71	- .86	1.09	3.33	
合計	度数 グループの%	度数	429	70	145	478	1122
		グループの%	100%	100%	100%	100%	100%

カイ二乗/自由度/有意確率

39.771

6

.000

			グループ				合計
			A	B	C	D	
v33 自衛隊の沖縄配 思う 備は、沖縄が戦争 にまきこまれる危 険性を高めている 。	度数 グループの% 調整済み残差	度数	250	43	78	265	636
		グループの%	58%	61%	53%	55%	57%
		調整済み残差	.83	.84	- .83	- .67	
	どちら ともい えない	度数	109	14	36	122	281
		グループの%	25%	20%	25%	26%	25%
		調整済み残差	.21	-1.00	- .10	.35	
	思わな い	度数	71	13	32	91	207
		グループの%	17%	19%	22%	19%	18%
		調整済み残差	-1.30	.03	1.17	.46	
合計	度数 グループの%	度数	430	70	146	478	1124
		グループの%	100%	100%	100%	100%	100%

カイ二乗/自由度/有意確率

3.543

6

.738

			グループ				合計
			A	B	C	D	
v34 日本政府は、沖 思う 縄の企業を保護育 成している。	度数 グループの% 調整済み残差	度数	26	4	22	38	90
		グループの%	6%	6%	15%	8%	8%
		調整済み残差	-1.89	- .74	3.36	- .07	
	どちら ともい えない	度数	202	25	79	291	597
		グループの%	47%	36%	54%	61%	53%
		調整済み残差	-3.20	-3.04	.22	4.48	
	思わな い	度数	200	41	45	148	434
		グループの%	47%	59%	31%	31%	39%
		調整済み残差	4.33	3.52	-2.10	-4.55	
合計	度数 グループの%	度数	428	70	146	477	1121
		グループの%	100%	100%	100%	100%	100%

カイ二乗/自由度/有意確率

47.772

6

.000

			グループ				合計
			A	B	C	D	
v35 今後ますます、 思う 国土防衛、戦争肯 定の教育が強調さ れるおそれがあ る。	度数 グループの% 調整済み残差	度数	199	40	50	164	453
		グループの%	46%	57%	34%	34%	40%
		調整済み残差	3.22	2.97	-1.60	-3.52	
	どちら ともい えない	度数	141	22	58	170	391
		グループの%	33%	31%	40%	36%	35%
		調整済み残差	-1.11	- .61	1.34	.47	
	思わな い	度数	90	8	38	144	280
		グループの%	21%	11%	26%	30%	25%
		調整済み残差	-2.43	-2.69	.33	3.48	
合計	度数 グループの%	度数	430	70	146	478	1124
		グループの%	100%	100%	100%	100%	100%

カイ二乗/自由度/有意確率

29.285

6

.000

附表2 グループ間の多重比較

(上欄は検定統計量 下欄は有意確率)

項目	K-W	A-B	A-C	A-D	B-C	B-D	C-D
1		17.135	34.069	102.307	51.204	119.442	68.238
	0.000	1.000	1.000	0.000	1.000	0.006	0.067
2		9.453	-30.006	-60.749	-39.459	-70.202	-30.743
	0.000	1.000	0.695	0.000	1.000	0.036	0.616
3		-14.335	-31.090	-62.288	-16.756	-47.953	39.197
	0.020	1.000	1.000	0.011	1.000	1.000	1.000
4		-38.753	-16.158	-54.453	22.595	-15.700	-38.295
	0.041	1.000	1.000	0.030	1.000	1.000	0.984
5		30.492	-108.402	-65.401	-138.894	-95.893	43.001
	0.000	1.000	0.000	0.005	0.007	0.068	0.744
6		67.381	8.026	-85.242	-59.292	-152.560	-93.268
	0.000	0.520	1.000	0.000	1.000	0.001	0.007
7		21.201	-98.509	-67.791	-119.710	-88.992	30.718
	0.000	1.000	0.001	0.001	0.011	0.051	1.000
8		40.116	53.213	-65.016	-93.329	-105.132	-11.802
	0.000	1.000	0.188	0.001	0.077	0.009	1.000
9		-11.958	-114.183	-140.002	-102.224	-128.044	-25.820
	0.000	1.000	0.000	0.000	0.024	0.000	1.000
10		-19.072	-94.695	-141.234	-75.623	-122.162	-46.539
	0.000	1.000	0.004	0.000	0.454	0.007	0.555
11		53.223	71.040	85.741	17.816	32.518	14.701
	0.000	0.953	0.067	0.000	1.000	1.000	1.000
12		-69.497	-64.193	-176.665	50,304.000	-107.068	-112.371
	0.000	0.405	0.138	0.000	1.000	0.000	0.000
13		-63.734	-24.101	-100.683	39.633	-36.949	-76.582
	0.000	0.308	1.000	0.000	1.000	1.000	0.008
14		51.540	-58.156	-137.312	-109.696	-188.852	-75.155
	0.000	0.559	0.065	0.000	0.009	0.000	0.003
15		-39.024	3.122	-70.872	-39.042	-113.018	-73.994
	0.000	1.000	1.000	0.001	1.000	0.012	0.035
16		26.201	-44.033	-49.218	-70.234	-75.419	-5.186
	0.036	1.000	0.774	0.088	0.667	0.314	1.000
17		0.557					
18		-31.333	-28.500	-262.011	3.833	229.678	-233.511
	0.000	1.000	1.000	0.000	1.000	0.000	0.000
19		1.768	76.179	165.895	74.411	164.127	89.716
	0.000	1.000	0.044	0.000	0.508	0.000	0.008
20		55.870	-75.558	-49.991	-131.427	-105.861	25.566
	0.001	0.888	0.051	0.073	0.015	0.035	1.000
21		18.651	-26.121	-113.071	-44.672	-131.722	-87.050
	0.000	1.000	1.000	0.000	1.000	0.000	0.001
22		41.387	92.964	85.596	51.578	44.209	-7.368
	0.000	1.000	0.001	0.000	0.925	0.995	1.000
23		0.080					
24		9.269	-99.026	-209.011	-108.295	-218.280	-109.985
	0.000	1.000	0.004	0.000	0.086	0.000	0.001
25		25.898	-62.782	-58.159	-88.681	-84.058	4.623
	0.004	1.000	0.155	0.018	0.230	0.155	1.000
26		0.552					
27		82.038	95.102	191.998	13.065	109.961	96.896
	0.000	0.223	0.007	0.000	1.000	0.029	0.005
28		81.228	20.339	-33.111	-101.567	-114.339	-12.773
	0.015	0.189	1.000	0.535	0.102	0.014	1.000

29	11.470	-70.731	-129.207	-82.201	-140.677	-58.476
0.000	1.000	0.083	0.000	0.360	0.002	0.237
30	-76.637	-136.792	-282.470	-60.155	-205.833	-145.678
0.000	0.315	0.000	0.000	1.000	0.000	0.000
31	-65.914	23.511	-42.044	-89.914	23.871	-65.555
0.025	0.516	1.000	0.204	0.516	1.000	0.120
32	-19.381	-102.376	-112.196	-82.995	-92.815	9.820
0.000	1.000	0.001	0.000	0.271	0.065	1.000
33	0.514					
34	-62.286	112.894	87.440	175.180	149.726	-25.454
0.000	0.560	0.000	0.000	0.000	0.000	1.000
35	77.723	-67.878	-81.361	-145.601	-159.085	-13.483
0.000	0.284	0.118	0.000	0.006	0.000	1.000

K-W:Kruskal-Wallis検定の有意水準、
 K-Wが $p > .05$ の場合には多重比較はおこなわない